

## 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

The Labour Year Book of Japan special ed.

## 第六編 朝鮮民族独立運動

## 第二章 抗日武装闘争の開始

## 第二節 左翼冒険主義とのたたかい

当時革命隊列内に存在していた小ブルジョアの革命分子と派閥分子は革命闘争が激化・発展する条件のもとで、植民地支配下にある朝鮮の具体的諸条件を考慮せずに根拠地——解放地区創設をもって革命闘争の勝利間近と単純に考え、敵の力を軽視・過小評価し、反日民族解放戦線に結集させるべき愛国勢力の団結を阻害し、社会主義革命の即時実現を主張して日本帝国主義からの民族解放闘争を放棄するのみか、解放地区では労働者と貧雇農のみをもってソビエト政府をたて、すべての土地を没収して政府所有にし、それを農民に耕作させるような急進的左翼冒険主義偏向の諸政策を実施して愛国的勢力の団結に否定的影響を与えた。また左翼冒険主義者は、敵の統治地域内の人民の大多数にむかって”反動”とか”日和見”と規定して排撃したため、解放地区の人民たちとの関係を杜絶させ、孤立状態においこむ危険な事態をもつくりだした。そして彼らは独立軍と中国人反日部隊とのあいだにも対立を助長させるなど、当時は組織されてまもない遊撃隊列の前途に数多くの障害をもたらした。

金日成をはじめ共産主義者は左翼的偏向の弊害を取り除き克服するため積極的に闘争を展開し、一九三三年の春、汪清県で招集された東満の党員会議において、遊撃隊結成後一年間の活動を総括するなかで、左翼冒険主義偏向を批判して革命闘争の前進のために、冒険主義者がもたらしたあやまちを具体的に指摘するとともに是正策を講じ、会議以後、解放地区では、反帝反封建闘争に広範な人民大衆を網羅してソビエト政府形態を人民政権形態である人民革命政府に改編し、反帝・反封建闘争の新しい政綱を発表して政治、経済、文化の諸分野にわたる民主改革を実施し、土地の私的所有を一切否定した左翼的偏向を私的所有制に改正して土地を農民に分配するとともに、日本人や親日悪質地主の土地のみは無償で没収し農民に無償分配を行ない、遊撃隊と人民の関係を強め、食糧増産を奨励した。敵に包囲された条件のもとでの食糧増産は解放地区の維持強化に役だったばかりでなく、武装闘争発展への大きなはげましとなった。

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

発行 1965年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始